

第 26 回 京都司教区 宣教司牧評議会資料

2025 年ブロック短期計画評価

2025 年 12 月 13 日

京都北部ブロック全体の評価

国際交流の場が拡大し、多国籍ミサや多言語聖歌を定期的実施。アジア文化の違いを尊重しながら交流が進展。信徒の高齢化が進む中、若い世代の参加が少なく、教会学校や行事を通じて若者の呼び込みを継続。各教会で課題解決のため実行委員会を設置。礼拝堂の更地化や耐震診断事業、墓地管理委員会の統合など組織化を推進。宮津、西舞鶴、福知山で Wi-Fi 導入。SNS やオンライン会議の活用で情報共有・広報活動が拡大。丹後教会では事務所機能強化、宮津聖堂の巡礼教会指定による受付体制充実。宮津聖堂の耐震診断事業が本格化。今後は耐震強化工事と寄付金集めが課題。地域貢献とシノドス流教会への転換を推進。地域連携・交流事業の発展を目指す。

各共同体の評価・課題

◆丹後教会

「教会ピアノ」活動で地域交流を促進。参加者の半数以上が地域住民。
コーラスグループや教会学校、カレー会などで若者の参加を促すも、参加者は限定的。
聖年行事「希望の巡礼団」結成、巡礼指定教会への訪問を実施。
宮津天主堂での巡礼訪問対応を強化。年間訪問者数は 2,225 名（内 14 巡礼団体、計 775 名）。
主日ミサ参加促進のため定期バス運行を再開。
老朽化した司祭館の解体・更地化を完了。
勉強会や要理講座、聖書勉強会などを定期開催。

◆東舞鶴教会

国際交流ミサを定期開催。英語・ベトナム語での朗読やパーティーで外国籍信徒との絆を強化。
教会学校（日曜学校）を月 1 回開催し、次世代育成を推進。
SNS 活用による広報活動と Wi-Fi 環境整備を進行中。
教会に来られていない人への訪問や連絡、聖書と典礼の送付を実施。
墓地管理委員会の合同設立に向けて規約改編を検討。

◆福知山教会

信徒間の交流を図り、希望を持って共に歩む場を目指す。
献堂 10 周年記念行事を多国籍共同体で実施し、交流を促進。
子供向けイベントや巡礼旅行、茶話会などで交流機会を創出。
巡礼指定教会として教会開放、訪問者対応を強化。HP 新設や情報発信も実施。

◆西舞鶴教会

子どもや青年の参加が少ないが、司祭団の増員で活気を取り戻しつつある。
聖歌隊再結成、英語ミサ定例化、黙想会や巡礼団活動などで信徒交流を促進。
地域一般への聖堂開放やコンサート開催で新たな活動を展開。

京都北部ブロック 2025 年度の宣教司牧短期計画の評価

2025 年 11 月 24 日 記録

文責：京都北部ブロック モデラートル トマス 頭島 光

<京都北部ブロック司祭からの評価として>

- (1) 国際交流の場の拡大と評価 アントニオ神父は福知山と西舞鶴でフィリピン信徒のためのミサを中心に活動。英語だけでなく多国籍のミサも定期的実施しています。アジアの文化の違いを尊重しながら教会内の交流が進んでいます。ミサでは多言語による聖歌なども取り入れられています。
- (2) 青少年の人材育成 信徒の高齢化が進む中、若い世代の信徒参加が少ない。そのため、様々な行事や教会学校などを立ち上げ、企画し、子どもや若者を教会に呼び込む工夫を続ける必要は、今後も続くでしょう。
- (3) 実行委員会の設置 各教会で様々な課題の解決に向けて、実行委員会を設置した。峰山・大宮礼拝堂の更地化(※網野の司祭館含む解体は終了した)や宮津聖ヨハネ天主堂の耐震診断事業などは、目下、推進中である。また、墓地管理委員会の統合等の組織化も進めています。
- (4) インターネット環境の整備 宮津、西舞鶴、福知山では、Wi-Fi が導入されたが、網野、東舞鶴は未だ十分とは言えない。それでも信徒レベルでは既にラインやフェイスブック、ZOOM によるオンライン会議が充実。これにより情報共有は定着化、公式 HP や SNS 等も活用され広報活動も広がった。
- (5) 宣教司牧活動の拠点化 丹後教会では事務所化の機能の強化、さらに宮津聖堂の巡礼教会指定による受付体制を充実できた。信徒ボランティアによる巡礼対応も信徒皆で連携できた。今後はさらに、宮津聖堂を事務所拠点として展開していく方向ではあります。
- (6) 宮津聖堂の耐震診断及び強化事業 宮津聖堂は、本年 11 月からいよいよ耐震診断事業が本格化する方向で進んでいる。再来年には耐震強化工事が始まることでしょう。更なる寄付金集めが課題となってきました。
- (7) 京都北部ブロックの宣教司牧方針 本方針は、司教様の「道と宿」の理念を軸に、社会への地域貢献とシノドス流教会への転換と推進に、今後も注力していきます。特に、地域との連携、協働など、更なる交流事業等を通して、今後、教会の活動を地域に向かって発展させていきたいところです。

<各共同体の評価>

イ) 丹後教会における評価と課題

◆教会ピアノ : 地域の人々が集う「教会ピアノ」の取り組みは、今年5月と11月に実施された。大宮礼拝堂にあるホールを使っているが、参加者はおおよそ90名近く。半数以上は地域の方々であった。こうした活動によって教会が知られる良い機会となっており、地域交流という目標を達成できた。

◆コーラスグループ : コスモスの活動は、メンバーの多くは女性信徒の有志おおよそ10名ほどであるが、一般の方もメンバーにいる。教会学校のほうも2カ月ごとの開催とし、子どもたちと共に楽しい場とするよう毎回工夫した。「カレーを食べる会」はかつてのサマーキャンプ時代を思い起こしながら、目的は当時の若者たちを集め、教会に足を向けるきっかけとすること。結果、集いにはそれほど多くの参加はなかった。

◆聖年行事 : 「希望の巡礼団」を結成。10月4日、巡礼指定教会、大津に巡礼した。丹後から約22名参加。北ブロックとして、総勢70名近くの参加であった。その他、例年通り、復活祭でのパーティー等はそれぞれ行われた。

◆宮津天主堂での巡礼訪問対応 : 月水金の午後だけでなく、第2第4の土日も聖堂を開放。信徒ボランティアによる訪問者対応を展開、京都教区内の各教会から14団体総計775名を受け付けた。加えて個人訪問客1500名を含め総計2225名の訪問があった。インターネット配信及び丹後教会からの情報発信等を通して、多くの訪問客があった。

◆バス運行 : 信徒の主日ミサ参加を促す定期便マイクロバスが、主日のミサ毎に運行。足のない信徒への配慮から実施。コロナ以降一時途切れていたが再開。宮津、岩滝から加悦、網野の間で、おおよそ10人から15人ほどが利用している。

◆解体更地化 : 老朽化した網野、峰山、大宮にそれぞれあった司祭館を解体。更地化に着手。教区の認可を得て、この9月末までにすべて完了。資金はすべて教区からの補助で賄った。

◆種々の勉強会 : 宣教委員会は、今年度、<おむすびの会>を2回ほど教会ホールなどを使って実施。一般の方々も多数集めることに成功。また求道者の勉強会から転向して要理講座を展開。洗礼後の信徒のアフターケア勉強会として月一でスタート。加えて、聖書勉強会は、同じく月一で行われている。いずれも宮津で、それぞれ司祭館およびループ館で行われた。

ロ) 東舞鶴教会・宣教司牧計画の振り返り

◆国際交流ミサについて : 国際社会にあって、外国籍の方々との交わりを大切にする目的で「ともに喜

びかつ祈る共同体を目指す」をテーマに掲げた。主日ミサでの朗読は、国際交流の一環として、定期的に英語やベトナム語で行った。また降誕祭、復活祭でのミサ後のパーティーや茶話会を通じて、ひとつの共同体になるよう積極的な呼びかけを行い、徐々に外国籍の方々との絆が出ていった。

◆教会学校について : 多国籍は固有なものであって、それゆえ多様性を尊重しつつ、次世代の子どもたちや若者の信仰をくともに育てることをテーマに、日曜学校(幼児主体)を、月に1度、行う。近隣の教会への遠足を巡礼として実施。普段、あまりミサに来られていない家族にも声をかけ、参加を促した。次世代を育成していくためにも、こうした地道な活動が必要であると思うので、今後も続けて行きたい。

◆インターネット環境について : コミュニケーションのあり方、方法を工夫し、現状に合った教会のあり方を見直すという事で、SNS(フェイスブック)での発信を続けている。なかなか広がっていかない部分もあるが、徐々にWi-Fi環境は整えてはきている。インターネット環境は、まだまだこれからの分野であるが、一層の整備が必要である。

◆教会に来られていない人への対応 : 連絡をとりながら、希望によっては、司祭と協力して訪問し、《聖書と典礼》の送付を送ることもした。今後も、来られていない方が増えて行くことが予想されるなか、引き続き、検討課題であると思われる。

◆葬儀委員会・組織の改編 : 東西舞鶴教会合同で墓地管理を連携。統一した規約を作り、墓地委員会を設立することを模索している。東西で合同規約改編検討委員会を立ち上げるために、その前準備段階として、互いの現状と課題を共有した。次年度は、合同委員会を設置した上で具体的な方策について協議していく。

ハ) カトリック福知山教会の短期目標と評価

基本的な課題として、教会が希望を持って共に歩む場となる様に、信徒間の交流を図る。

◆献堂10周年行事 : 今年5月、献堂10周年記念があった。教会の飾り付けや祝賀会を、日本・フィリピン・ベトナム共同体が共同して行う事が出来、とても良い交流の場となった。

◆様々なイベント : 子供のためのバーベキュー大会。北部ブロック主催の大津教会巡礼旅行。ミサ後、神父様を囲んでの茶話会等、信徒間の交流を図る場面もあった。国際交流ミサにおける典礼の協力等も進んだ。コロナ後、ミサの後、直ぐ帰宅することが多くなり、定期的に、信徒間の交流が持てる機会がもつことが期待される。

◆巡礼教会の指定 : 巡礼の恵みに感謝し、開かれた教会として巡礼者を迎えることができた。巡礼

者を迎えるに当たり、毎日10時～16時まで教会を開放してきた。また、巡礼記念となる福知山教会のスタンプを作成。献堂10周年記念の教会だよりを元に福知山教会の事を知って頂きました。HPも新しく立ち上げ、司祭団の記事も投稿され、配信されている。因みに、本年11月10日現在、個人、団体を合わせ、74グループ。総勢416名をお迎え致しました。新しい出会いに感謝いたします。

二) 西舞鶴小教区の今年度の短期目標振り返り

近年、教会には子どもや青年の姿はなく、主日のミサも空席が目立ち、小教区の将来を憂うばかりの日々である。2023年意向、レデンプトール会から2名の司祭と今年、4月よりさらに1名のインドネシアから若い神父様が不妊され、合計3名の司祭を派遣いただいている。これは西舞鶴だけではなく北部ブロックの信徒にとって何よりの大きな喜びです。

その喜びのうちに、今年度、西舞鶴では、聖歌隊が再結成され、第2日曜午後二時の英語ミサの定例化、ゆるしの秘跡や黙想会の開催、更に本年は聖年という事もあり、北部ブロックの巡礼団(大津教会へ)を計画。70名ほどが参加するなど、少しずつ信徒同志の交わりが、目に見える形で活気を取り戻しつつある。また、聖堂でのコンサートの開催を企画して、地域一般にも聖堂を開放。教会から遠のいている信徒にも安らぎの場として提供した。救いを求める人がいつでも、教会に来られるよう新たな活動も進められるよう努力したい。

信仰の道に不安をもっていた評議会、信徒一人ひとりが、司祭団を中心に、新たな宣教、司牧へと、希望の光を感じるここ数年であったことを振り返ることができました。

2025年 洛北ブロック報告

今年度のブロック短期計画

- ①教会共同体におけるあらゆる企画をキリストの体験へと方向付けるよう努めます。教会として、また信徒がそれぞれの生活の場や地域社会で証人となるよう努めます。
- ②キリストを体験することで、各々が自己中心的な信仰観や無関心、囚われから解放され、お互いがお互いを大切にできる教会共同体作りを目指します。特に大きな教会では、小グループ作りを推奨しお互いの生活がみえる家族、仲間づくりを模索します。
- ③小教区の枠組みを超えて、オンラインなども活用した参加可能な黙想会、信仰入門講座、キリスト教講座、勉強会、典礼研修会、分かち合いなどを目指します。
- ④ブロックで協力して小学生、中高生、青年、すべての世代の信仰教育に取り組みます。また西陣教会内の望洋庵と連携していきます。
- ⑤「聖年」にあたり学びを深め、巡礼を行います。

評価

- ②について 衣笠教会は地区ごとの集会。高野は部会や活動グループを通じ信徒間の交流を深めているし、西陣・小山・宇津山国のそれぞれの共同体も少人数ゆえに信徒同士のつながりを大事にしている。
- ③について
 - ・堅信の準備講座をブロック合同で行った。保護者同伴を呼び掛けたが、保護者も学びを深める機会になったようだ。
 - ・黙想会は開催する小教区だけでなくブロック内の小教区にも参加を呼び掛けてはどうかという意見が出た。
- ④について
 - ・西陣教会でのキリスト教講座は小教区を越えて希望者は受講できるし、そうしている（ブロック）。
- ⑤10月18日に奈良教会への巡礼を実施。現地集合、現地解散で行ったが、高齢者は参加しづらいという意見があった。

まとめ

- ・短期計画については、全ての小教区が心掛け、取り組んだものと理解している。その意味で①も多くの信徒が心掛けていることではないか。
- ・コロナ以前のようにブロック合同の集まりをしたいという意見が出ている。個々人では繋がりはすでにあるが、ブロック全体としての交わりの機会を持ちたい。

長期計画Ⅰ ブロック全体に開かれた分かち合いの場を設け、小教区間のつながりを深めてゆく。	
振り返り	年間計画1-1 中高生・青年の集いを行う。
	第1回:5月18日(日)大津教会にて開催。17名参加。 イ・ウォンギュ神父様司式による主日ミサに与り、ミサ後琵琶湖畔のなぎさ講演で昼食、石山寺を訪問。 第2回:10月26日(日)山科教会にて開催。約30名参加。 ソ・ウォンハ神父様式による主日ミサに与り、ミサ後天智天皇陵～琵琶湖疎水を散策、教会に戻りバーベキューを行い交流。
長期計画Ⅱ 各小教区固有の学び、祈り、活動(地域との交わり、国際協力など)、交流行事をブロック共同体の福音宣教活動として共有する。	
振り返り	年間計画2-1 各小教区で四旬節黙想会を計画し、ブロック内に知らせる。
	3月16日河原町教会 ナン神父様 3月16日 伏見教会菅原神父様 3月23日山科教会中川神父様 3月30日北白川教会菅原神父様 4月6日桃山教会菅原神父様
振り返り	年間計画2-2 「病者の日」(ミサ)を行う。
	世界病者の日2月11日の前の主日、2月9日(日)(年間第5主日)のミサで、各小教区で作成した共同祈願を集約して捧げた。 本年度の集約担当教会は伏見教会。
振り返り	年間計画2-3 国際交流を促進する。
	伏見教会ではベトナム人信者が約200名足を運ばれている。 「ベトナム語のミサ」「ベトナムの人達と共に捧げるミサ」を行っており、近畿各府県から集まつの「ベトナム成人祝祭・ベトナム語のミサ」「結婚講座」も計画・実施されている。 山科教会では5月4日(日)に、ソ・ウォンハ神父様のもとにチェジュ教区の神父様、信徒が尋ねられ、ミサ後バーベキューでの交流が行われた。
長期計画Ⅲ ブロック内小教区の多様性を活かしながら、福音宣教の可能性を模索する。	
振り返り	年間計画3-1 福音宣教につながると思われる取り組みを小教区ごとに行う。
	河原町教会:平和旬間行事として、正義と平和協議会「写真展」に協力。 伏見教会:平和旬間のミサにおいて平和を祈願し分かち合いを行う。 桃山教会:平和旬間に「生きたロザリオ」を実施、また、8月6日～31日、「祈りのポストイット」として、信徒がポストイットに平和への祈り、行動を記載して貼りだす取り組みを行った。また、8月31日防災訓練を実施した。 山科教会:平和旬間行事として、「比叡山宗教サミット」に信徒が参加した。エコロジーの取り組みとして、森林の研究者である信徒から、森林の話の講話を行った。 北白川教会:平和旬間行事として「テゼの歌をつかって黙想と祈りの集い」を行い、9月も開催、12月も開催予定となる集いとなってきた。
2025年 特に喜ばしかったこと	
河原町教会:工事が終わって、集会室でミサ後お茶やパーティでの交流が戻ってきたこと。 伏見教会:ベトナム人の信徒が評議会に参加してくれていること。 桃山教会:祈りのポストイットの取り組みが、ロザリオの各玄義につながり、祈りのつながりになっていったこと。 山科教会:長期計画に取り組むことができ、幼児洗礼があり、ミサの人数も少し増えてきたこと。 北白川教会:若い人たちに声掛けをしたら、楽しく参加してくれること、みんなそれぞれの力を積極的に出して、自分たちで教会を盛り上げてくれていること、他教会からの参加があること、平日ミサに与れるようになったこと、教会が一つになってきていると実感すること。	
2025年 十分に取り組めなかった課題	
伏見教会:ベトナム人とのコミュニケーションの課題。施設の老朽化と維持管理、災害対策の課題。 桃山教会:ベトナム人とのコミュニケーションの課題。 山科教会:高齢化への対応と若い人たちに教会に来てもらう課題。	
総評	
2025年は年間計画3-1を改め小教区の自主的な取り組みを進めることとし、各小教区の特徴と工夫がある取り組みを行えたと思います。 また、2024年より編入となった北白川教会とブロック会議を通じて兄弟姉妹として分かち合うことができたと思います。 2026年度も本年同様ブロック会議を3回(2月・6月・11月)開催することとし、シノドス的教会の「霊における会話」を取り入れた小教区での分かち合いを年間計画の一つとして取り組む予定です。	

<2025 年度計画>

○長期計画

「地域に対して開かれた福音宣教する教会協働体となっていきたいと思います。」

○短期計画

- (1) 「あらゆるものはつながっている」という視点で「ともに歩む(シノドス)教会」の具体化を進めます。
- (2) 聖年のテーマに沿った取り組みを行います。
- (3) 小教区の枠を超えて、子供及び青少年の育成と全ての世代の信仰教育に取り組みます。

カトリック長岡教会 (1) 短期計画の振り返り

【できたこと】

- ① 「ともに歩む(シノドス)教会」の具体化
→ ブロックミサ3回開催、ブロック合同待降節黙想会開催、ブロック会議、合同部会開催、
- ② 聖年のテーマにそった取り組み
→ 6月29日宮津巡礼を開催。希望の巡礼者と皆で歌った。
3月30日の西院でのブロックミサの後「希望」について分かち合い。
- ③ 子供及び青少年の育成と全ての世代の信仰教育
→ 7月26日～27日：ブロック教育部で合宿、8月9日：侍者勉強会等を開催。

【出来なかったこと】

- ・若い人も来てくれる楽しい催しの開催。

昔亀岡聖堂でしたような、ブロックミサの後のバーベキューのような催しもありだと思えます。

九条教会の振り返り

- (1) ブロックミサやブロック部会の行事を通じて「ともに歩む(シノドス)教会」を实践出来たと思っています。そして更に「ともに歩む(シノドス)教会」を進めていきます。
- (2) 京丹ブロックとして取り組んだ「宮津教会堂巡礼」は約90名の参加者が集い、聖年のテーマ「希望の巡礼者」を体現する事が出来ました。
- (3) 小教区だけでは難しい部分をブロックとして実施出来た事は重要でありがたく、今後進めていきたい。

カトリック丹波ブロック

- (1) 「あらゆるものはつながっている」という視点で「共に歩む(シノドス)教会」の具体化を進めます。
 - ・共に歩む教会として外国籍の方と交わる事が大切だと分かっている、言葉の壁や年齢差があり、一緒にミサに与っているだけにとどまっている。外国籍の方でもリーダーシップ的に教会活動に参加してもらえるよう積極的に働きかけ教会全体で支えられたらと思います。
 - ・教会に来られない信徒へ電話や訪問等でコンタクトをとることを継続している。
月に一度の信徒の信仰体験発表を通じて思いを共有した
 - ・教会内では「共に歩む教会」は、外国籍の方々の交流、積極的なミサ奉仕など
 - ・教会から離れておられる方の働きかけを行った。共に歩む教会の取り組み今年だけではなく、継続的にしていかなければならない。
 - ・外国人とのコミュニケーションを、もっと考えるようにする。
「言葉の壁」というが、いいわけのように感じる。
食事会、バザー等徐々にコミュニケーションがとれるよう考えていく。

(2) 聖年のテーマに沿った取り組みを行います。

- ・ブロックの取り組みとして、聖年の巡礼地宮津教会に訪問された事は、小教区間の繋がりも出来て良かったと思います。個人的には司教区を訪問のみ

- ・聖年の祈りをミサ終わりに捧げた。「希望の巡礼者」を閉祭の歌として捧げ、ベトナム語でも捧げてベトナム信徒とも一体となって取り組んだ。

6月にはブロックとして、宮津教会へ巡礼に参加したが、各口でも巡礼している。

- ・「希望の巡礼者」としては、他教会の巡礼指定教会への参加は、心が一つになり聖年をかみしめた。

(3) 小教区の枠を超えて、子供及び青少年の育成と全ての世代の信仰教育に取り組みます

- ・信徒カテキスタの方が、成年に限らず子供さんも信仰教育に携わっておられる。洗礼、堅信へと導かれ丹波教会にとっても喜びであった。

- ・教育部による侍者学習会の開催

- ・侍者教育や BBQ で交流があった。又、ブロックミサ後の川柳大会ではなごやかに 過ごせ、良い企画であった。全ての世代の信仰教育の面では弱かったように思えた。

- ・神父様が、教育部に力を入れてくださり、ブロック教育部会等行っている

- ・子供の教育ばかりに目を向けていても子供が少ないので、青少年、成人信徒に向けて、教育部が信仰の洗い直しが出来るように、各教会実行に移している。

- ・みことば、聖書を知りたいと要望があり、月1回 聖書の分かち合いを開催している。

カトリック西院教会

(1) 「あらゆるものはつながっている」という視点で「ともに歩む(シノドス)教会」の具体化を進めます。

- ・ブロックミサ後の「希望」についての分かち合い (3/30)

(2) 聖年のテーマに沿った取り組みを行います。

- ・希望の巡礼 (6/29)

(3) 小教区の枠を超えて、子供及び青少年の育成と全ての世代の信仰教育に取り組みます。

- ・KTB 中高生会 (・3/29-3/30、・7/26-7/27、12月 (予定))

- ・京丹ブロック侍者勉強会・朗読奉仕勉強会 (8/9)

カトリック桂教会

(1) 「あらゆるものはつながっている」という視点で「ともに歩む(シノドス)教会」の具体化を進めます。

- ・毎月第一日曜日のお茶会での分かち合い

- ・教会に来られない方へのご聖体奉仕や、ミサの送迎

- ・ごぶさた信徒へ「pocoZEFFIRO」の郵送

- ・教会建築の見学者の対応を通じて、宣教活動

(2) 聖年のテーマに沿った取り組みを行います。

- ・希望の巡礼 (6/29)

(3) 小教区の枠を超えて、子供及び青少年の育成と全ての世代の信仰教育に取り組みます。

- ・桂教会学校で高槻教会への巡礼遠足 (6/1)

- ・京丹ブロック侍者勉強会・朗読奉仕勉強会 (8/9)

山城ブロック 短期計画振返り 2025年（2019年より継続）

ブロック短期計画

<短期①>ブロック国際協力部の更なる充実・発展を目指します。

○宇治教会で毎月1回英語ミサ後に料理を持ち寄って開催される茶話会が恒例化した。

英語ミサではギター伴奏で歌うグループができています。

○精華教会で11月2日ミサ後、再建された輪島教会へのクリスマスプレゼントとして、ベトナム4人・ナイジェリア1人含め13人でステンドグラス作りを行った。

<短期②>青少年の育成への支援をします。ブロック教育部は地域教会の子どもたちがキリスト者として喜びを持って生きていけるような活動をしていきます。

○宇治教会では今年からベトナム家族の息子さんが侍者を担当してくれるようになった。

<短期③>高齢化に対する取り組みを充実させます。

○聖年の年にあたり、7月4日宇治教会中心に大津教会へ巡礼。また、9月15日には田辺教会・八幡教会・精華教会合同でカトリック丹後教会・宮津教会堂への巡礼、参加者44名。

○庭木や教会外回りの木々など、信徒では難しい清掃はシルバー人材センターに依頼している（八幡教会・田辺教会）

<短期④>各教会広報とブロック広報について。

[活動]・現在各教会では紙の週間広報を発信しています。ミサや行事に来られている人だけではなく教会に来られていない人に週間広報を持っていくことによって、情報を共有します。

○広報：山城ブロックだより25号を6月に発行、また26号を12月20日頃発行予定。

2025 年度宣教司牧計画 短期計画の評価

滋賀ブロック

短期計画①

- 1) 2025 年滋賀ブロック宣教司牧計画の信徒への周知に向けて取り組みます。
→ 小教区によって周知に差異がみられたが、総じて年頭に披露しても年間を通じての確認までには至っていなかった。また外国人コミュニティへの周知も課題。
- 2) 主日のミサ、および滋賀ブロックの行事(1典礼研修会、2平和旬間ミサ、3びわこウォーカソン、4教会学校キャンプ)に、各国コミュニティから多くの参加を促し、教区の方針に基づいて1つの共同体を作ります。
→ 一部に行事自体が周知できていなかったという意見もあったが、総じて積極的な参加があり、特に外国人コミュニティから多くの参加がみられた。
- 3) 教区・ブロック・小教区が主催する講座等の行事に参加し、聖書の分かち合い、教会学校やサマーキャンプ等の子どもにとって魅力のある「小中高生の教育」の充実を図り、全ての信徒が神の愛を感じられるように努めます。
→ キャンプの参加は多く盛況だった。また教区の中高生会には運営を含めてとても積極的な参加があったが、その参加者がミサには来ないことが課題。
- 4) 高齢になり教会に来られなくなっている信徒のために、教会と繋がっている同じ「希望の巡礼者」として思いを持ち続けられる取り組みを考えていきます。
→ 小教区により活動に濃淡はあるが、総じて高齢者や病者の訪問は概ね定期的実施。しかし担い手側が一部の信徒でかつ高齢であることから、今後の活動継続に懸念がある。
- 5) 聖年にあたり、各小教区が巡礼を計画し実行します。
→ 各小教区とも巡礼を行い、また外国人コミュニティの参加もあった。巡礼を通じて信仰をより深めるとともに、小教区内および近隣小教区間の結束にも繋がった。

短期計画②

- 1) 自然災害や紛争などで被害を受けた方や貧しい(虐げられた)人たちに対して、積極的な支援を継続して行っています。
→ 釜ヶ崎、能登、ウクライナ、ミャンマー、フィリピンなどへ、継続的な支援と災害に対応した緊急支援の双方を行った。
- 2) 福音宣教について、各小教区が具体的な方法(教会の基本的な活動、病者の訪問や他ブロックとの交流等)を考え実行します。
→ 入門講座や信徒向けの聖書講座を定期的実施した。また、各種キリスト教の集いである『世界祈祷日』へ参加した。
- 3) 初めて教会に来た方々に声をかけ、また、聖年を祝して共同体の内外で積極的に交流して、神の愛の交わりの輪を広げます。
→ 未信者の方への案内は小教区それぞれに工夫して行った。今年は聖年巡礼によって、小教区内外で交流が深まった。巡礼指定の天津教会では総計 1200 人を超える巡礼者を迎えることができた。

以上

2025 年 11 月 16 日

2025 年三重北部ブロック宣教司牧実施計画書に対する評価

三 重 北 部 ブ ロ ッ ク

1. 典礼研修会・侍者研修会(司牧者チームで教育)

各小教区にて実施

2. サマーキャンプ(7月27日(日)～28日(月)・四日市少年自然の家にて実施)

各小教区の教育部会が中心となって、子ども 35 名、スタッフを含め総勢 51 名で実施し、子どもたちも満足し、喜びの内に問題なく実施することができた。

3. 三重北部ブロック合同堅信式(7月6日(日)・桑名教会にて実施)

各小教区にて受堅者 29 名が準備の勉強を行い、堅信式も司教様の司式のもと、桑名教会が中心となって無事に行うことができた。

4. 子どものミサ、各行事への参加を促進する。

教会に興味を持ってもらい、ミサ・行事に参加しやすい環境作りの企画・実施を行う。

桑名教会では、月 1 回日曜学校を行い、チャリティーバザーで子どもたちのためのゲームコーナーを設けた。

四日市教会では、毎日曜日に日曜学校を行い、七五三の祝福式、子どもたちの初聖体への勉強と初聖体式、子どもたちのためのクリスマス・ミサ、カラサンス祭やバザーでの子どもたちの活躍などを実施した。

鈴鹿教会では、第 5 日曜日に子どもたち中心のミサを行い、ミサ後、勉強会を実施している。

5. 聖年巡礼および交流会

10 月 13 日(月・祝)に、約80名の方が奈良教会への巡礼旅行に参加し、聖年の恵みを受けるとともに小教区を超えた交流を深めることができた。

6. 勉強会

各教会で実施している聖書勉強会などの情報を共有し、互いに参加できる機会を増やす。

各小教区の勉強会の情報共有はできたが、それぞれの勉強会が主日のミサ後に行われているので、小教区を越えた参加とはならなかった。

7. 黙想会

各教会で実施する黙想会および赦しの秘跡などの情報を共有し、互いに参加できる機会を増やす。

各小教区の黙想会および赦しの秘跡の情報共有はできた。それぞれが主日のミサ後に行われているので、小教区を越えた参加には困難な面もある。

以上

三重南部ブロック宣教司牧短期計画の評価

◎教会学校行事

暑い中ではあったが、神父様・シスターの前準備が整っておりスケジュール通り進められ、教会学校のやり方を学ぶことが出来た。神父様のお話しが分かりやすく、パズル作りも親しみやすく子供たち・スタッフとも学び多いものになった。

来年度からはリーダーを務めてくれているサレジオ志願院生がいなくなる。新しいリーダーを育てていくにはどうするか、またサマーキャンプをどうしていくのかが課題となる。

◎シノダリティへの理解を深める分かち合い

各コミュニティとの交流を深める為に行事を企画し文化の違い、言葉の壁はあるが互いに尊重し合い共に歩む教会を目指している。

ミサは各コミュニティと典礼奉仕をシェアしながら行っている。改修工事や修理などもコミュニティの人たちと協力をしながら施設の維持管理を行っている。又、「隣人を自分のごとく愛する」共同体作りを実践するために、教会に來られてない方の自宅訪問、敬老の日には施設に住まれている信者を訪問している教会もある。

日本人信者に対し圧倒的にフィリピン人信者の多い教会では、神父とシスターがうまくコミュニティとのコミュニケーションを取っており教会の活性化がみられる。

以上の事から、各教会とも積極的に取り組む姿がうかがえる。

◎平和旬間

平和旬間行事では、映画「X年後」の鑑賞、三重ダルクの市川氏の話とロイ神父のDVD鑑賞、谷川俊太郎「せんそうとへいわ」の話、鐘を鳴らしロザリオを唱えるなど各教会で平和を祈り、意義ある分かち合いが出来た。

◎世界祈祷日

ダルク支援をしている教会や宗教者連帯会（平和の集い、人権教育、障害者福祉支援）に参加し地域社会へキリスト者の証をしている教会もある。一方、他の教会ではまだ取り組みが出来てない教会もあり、今後の検討が必要。

◎2025年聖年希望の巡礼者

今年の大きな目的の一つになった。交通手段は違うが、各教会それぞれ指定教会への巡礼を行った。

「2025年の聖年を振り返ってください」とモデラートルから指摘があり、各自で振り返ることにする。

奈良ブロック 2025 年短期計画の評価

奈良ブロック小教区では、①青少年の養成 ②信仰養成・奉仕を深める共同体作り ③多国籍多文化共生 ④先人の信仰を学ぶ ⑤高齢化への対策と教会に来られない方への対応 ⑥聖年における取り組み 6つの目標を掲げ、信仰生活の充実に努めてきました。

- ① 青少年への行事として奈良県青少年の集いにはそれなりの人数が参加したが、参加した小教区に偏りがみられた。奈良教会が中心に企画した教会学校キャンプもそれなりの人数で、参加者は楽しんで過ごすことができた。教区行事の案内は各教会に浸透しておらず、一部の参加にとどまった。奈良で行われる機会もあるので、今後さらに積極的に参加を呼びかける。該当する青少年がいない、またごく少ない小教区もあり、少子高齢化の波に抗うことができず悩みを抱えている。合同堅信式には、若者や外国籍の信徒の参加があり喜ばしい。
- ② 奈良ブロック聖書講座には今年も多数の信徒が参加した。典礼研修会で信徒の典礼奉仕、とくに集会祭儀について学ぶことを考えている。
- ③ 教会によっては侍者の奉仕を多国籍の方々に奉仕していただいている。外国の方に、「日本にいる間の自分の所属教会を決めていただく」取り組みを進めていく。英語ミサ、ベトナム語ミサ、スペイン語ミサが行われているが、日本人も積極的に参加し、日本語のミサにも来ていただくことによって信徒間の協働につなげたい。
- ④ 先人の信仰に学ぶことへの思いを深め、高山右近や日本の殉教者への追悼、郡山の流配者の信仰を学ぶ機会を例年通り行うことができた。右近こども祭りは終了したが、記念日にミサを行うことから顕彰行事を計画していく。
- ⑤ 各教会とも高齢化が進み、役員や部活動の成り手がなく苦勞している。外国籍の方々と協働、青少年の育成を図るとともに、少ない人数での教会運営をどのようにするかも考えていきたい。
- ⑥ 聖年の巡礼教会への訪問は、各教会がそれぞれ計画して行った。巡礼指定教会の奈良教会では外国からの巡礼団もあり、外国人観光客もミサや聖体訪問に訪れている。巡礼担当者がお迎え・お茶・典礼準備の奉仕をされている。

今年実施できなかった課題は継続審議として次年度の計画に持ち越す予定。